

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	愛和システムエンジニア専門学校
設置者名	学校法人愛和学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	ITエンジニア学科	夜・通信	1,292 単位時間	160 単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考) https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛和システムエンジニア専門学校
設置者名	学校法人愛和学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社従業員	2022.4.1～ 2026.3.31	学識経験者としてコンプライアンスの構成と維持・管理に関する助言
常勤	株式会社役員	2022.4.1～ 2026.3.31	学識経験者として経営・運営全般に関する助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛和システムエンジニア専門学校
設置者名	学校法人愛和学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
1月 下記の点について成果を反映し、検討および改善を行う 就職状況 業界の動向および課題 検定の結果	
2月 学科長より次年度授業計画書(シラバス)の作成を行い、 上旬 講師会議および職員会議を開催し、認定を行う ※上記内容から到達目標、授業の内容、方法等について追加修正を行う	
3月 授業計画書(シラバス)の公表(冊子・Web) 学生・保護者・公開 上旬	
授業計画書の公表方法	https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
前期・後期共通で以下の通りとする。	
① 成績は授業科目毎に100点法(成績評価70点・出席点30点)とする。	
② 成績評価のために、授業科目毎に試験若しくは実習での成果物の提出を課す。	
③ 成績評価のために、授業科目毎に3分の2以上の出席が必要となる。	
④ 追試について 授業科目毎の出席が3分の2未満の場合、与えられた課題を提出して追試を行う。 各授業科目で成績評価が40点に達しない場合、追試(試験若しくは成果物の提出)を行う。 合格と認められた場合は、40点の成績評価とする。 追試は有料とし、1科目につき3,000円を徴収する。	
⑤ 試験若しくは成果物において不正行為が行われた場合は、その授業科目の成績を0点とする。	
⑥ 成績はA・B・C・D・Fの5段階評価を持って示し、Fを不合格とする。 A 90点～100点 B 80点～ 89点 C 60点～ 79点 D 40点～ 59点 F 40点未満	
⑦ 年2回の成績評価をもとに相対評価を行い、各学年の成績評価を算出する。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価係数を導入し、5段階評価の評語とその基準点数及び成績評価係数の算出式を用いて算出。

成績評価係数の算出式(小数点第3位を四捨五入)

成績評価ポイント A : 3.0、B : 3.0、C : 2.0、D : 1.0、F : 0.0

$$\begin{aligned} & (\text{成績評価ポイント3の単位数} \times 3) \\ + & (\text{成績評価ポイント2の単位数} \times 2) \\ + & (\text{成績評価ポイント3の単位数} \times 1) \\ + & (\text{成績評価ポイント3の単位数} \times 0) \end{aligned}$$

総履修単位数

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

次の項目をもとに校長が招集する会議で学位認定を審査する。

- ① 年間出席時数が80%以上のもの
- ② 履修単位が卒業時100単位(進級時50単位)以上のもの

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	愛和システムエンジニア専門学校
設置者名	学校法人愛和学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo
収支計算書又は損益計算書	https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo
財産目録	https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo
事業報告書	https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo
監事による監査報告（書）	https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	ITエンジニア学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間	408 単位 時間	1,292 単位時 間	単位時 間	単位時 間	単位時 間
	夜		1,700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		95人	93人	4人	1人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

○ITエンジニア学科 1年 学科目標

プログラミング言語（Java）を基礎から学び、データベースを持つ Web アプリケーションを1人で構築できる技術を身につける。また、外国語を勉強し、グローバルな社会で活用できるようにコミュニケーション力の向上を目指す。

○ITエンジニア学科 2年 学科目標

1年次に学んだ技術をもとに、別のプログラミング言語（PHP・C#・python等）を学び、IT業界においてキャリアアップや業務の幅を広げることができるよう備える。

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>前期・後期共通で以下の通りとする。</p> <p>① 成績は授業科目毎に100点法(成績評価70点・出席点30点)とする。</p> <p>② 成績評価のために、授業科目毎に試験若しくは実習での成果物の提出を課す。</p> <p>③ 成績評価のために、授業科目毎に3分の2以上の出席が必要となる。</p> <p>④ 追試について</p> <p>授業科目毎の出席が3分の2未満の場合、与えられた課題を提出して追試を行う。</p> <p>各授業科目で成績評価が40点に達しない場合、追試(試験若しくは成果物の提出)を行う。</p> <p>合格と認められた場合は、40点の成績評価とする。</p> <p>追試は有料とし、1科目につき3,000円を徴収する。</p> <p>⑤ 試験若しくは成果物において不正行為が行われた場合は、授業科目の成績を0点とする。</p> <p>⑥ 成績はA・B・C・D・Fの5段階評価を持って示し、Fを不合格とする。</p> <p>⑦ A 90点～100点 B 80点～ 89点 C 60点～ 79点 D 40点～ 59点 F 40点未満</p> <p>⑦ 年2回の成績評価をもとに相対評価を行い、各学年の成績評価を算出する。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>次の項目をもとに校長が招集する会議で学位認定を審査する。</p> <p>① 年間出席時数が80%以上のもの</p> <p>② 履修単位が卒業時100単位(進級時50単位)以上のもの</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>各クラス担任制により、学生の出席状況の把握、修学支援、進路支援等を個別で実施。状況に応じて個別のキャリアカウンセリングも実施。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	17人 (94.4%)	1人 (5.6%)
(主な就職、業界等) IT企業(プログラマー・システムエンジニア)			
(就職指導内容) キャリア形成・個人面談・インターン・履歴書指導・面接指導			

(主な学修成果 (資格・検定等)) Javaプログラミング能力検定3級 Oracle認定Javaプログラマ_ブロンズ
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	5人	12.5%
(中途退学の主な理由) IT業界への就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリア形成や面談等により、本人の就職したい業界がIT以外になった場合は、人材紹介会社と連携して就職支援を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ITエンジニア学科	70,000円	379,000円	181,000円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学習成果 (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入れ募集 (8) 財務 (9) 法令の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 ・評価委員の構成

<p>委員の定数は5名とし、委員の選出区分は企業経営者、卒業生などによって構成</p> <p>・評価結果の活用方法</p> <p>各評価結果に対し、理事会として改善できるかを検討し、即時に改善できるものは次年度より改善し、年数がかかるものは次年度までに改善計画を作成し改善を行う</p> <p>・改善及び改善計画の実施責任者は学校長とする。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
IT企業	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日	事業部長
人材紹介会社	令和4年11月1日～ 令和7年3月31日	代表取締役
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://aiwa-itec.ac.jp/schoolinfo

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄(合計欄を含む。)について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード(13桁)	H140313000822
学校名(〇〇大学等)	愛和システムエンジニア専門学校
設置者名(学校法人〇〇学園等)	学校法人愛和学園

1・前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者(家計急変による者を除く)		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者(年間)				0人
合計(年間)				0人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令(令和元年政令第49号)第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2・前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3・前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4・適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	1人	0人
計	人	1人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。